

市の人口	
(昭和58年5月1日現在)	
世帯数	50,430世帯(前月比185世帯増)
人口	159,133人(前月比80人増)
男子	79,362人
女子	79,771人

# 宇治市政だより

5/21  
昭和58年  
(1983年)  
第630号

発行 京都府宇治市  
編集 文書広報課  
〒611 京都府宇治市宇治路33番地  
電話 (0774)22-3141  
●毎月1日・11日・21日発行

## 赤痢 予防は 多量の水で手洗いを



懸命の防疫活動(5月10日、宇治小学校で)

市では、今月初め発生した「赤痢」の流行を防ぐため、関係施設や菌検出家庭の消毒などの防疫活動に取り組んでいます。また、京都府では十六日、「宇治市地域赤痢防疫対策本部」(本部長＝宇治保健所長)を設置、防疫体制を確立し、対策に万全を期すことになっています。今回発生した赤痢はゾノネ菌によるもので、症状は大半が軽症です。市民の皆さんは、用便後や食事の前などには必ず石けんで手を洗うなど、赤痢の予防に努めてください。

### 関係施設を中心に 防疫活動を推進

市内で発生した赤痢は、五月十七日現在、六十人が患者。地域赤痢防疫対策本部(本部長＝宇治保健所長)を設置、対策に万全を期すことになっています。京都府立佐藤病院などに取寄されています。当初、東宇治地域に多くの患者が発生しましたが、宇治地域でも発生がみられ、主に、保育の園児や、小学校の児童、その家族を中心に発生しています。このため市は、保育の体所や盲学校、幼稚園、学校給食を中止する一方、関係施設関係消毒、便所や手洗い場、消毒を設置するなどの流行防止に取り組んでいます。また、宇治保健所は、関係者の検査をはじめ、防疫活動や啓発活動を実施しています。

### 収容患者は 治療で無菌に

患者の排出期間は、発病後一週間から四週間のもので、決しその人から感染することはありません。収容された人のうち、菌が消失し、感染

### 中止する事業

### 各種催しと予防接種

- 現在、市内で赤痢が発生しているため、次の事業を中止します。
- ・参加予定されていた市民の皆さんは大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解ください。
  - ・中止する事業
    - ・市民茶振りの集い・観劇
    - ・工場労働者会：5月10日
- なお、おそれなければ、退院されます。地域の皆さんも、正しく理解し、おもしろい気持ちで迎えていただきますようお願いいたします。
- 根拠のないデマやうわさにとまわらず、赤痢について不安な点がありましたら、赤痢防疫対策本部(宇治保健所内)の電話(0774)22-3141か市保健衛生課(0774)22-3141までお問い合わせください。
- 腸の菌の混じりなどもあります。
- このような症状があれば、かかりつけの医師または赤痢防疫対策本部(宇治保健所内)か市保健衛生課へご相談ください。
- 今回、宇治市内で発生している赤痢は、毒の弱いゾノネ菌によるもので、本人に自覚症状がなければ、検査の結果はじめて、保護を判断した場合同様です。
- 赤痢は、発症三日から七日、重症でも十日ほどで治まります。

### 予防は

食べ物は必ず加熱して

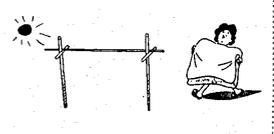


使用後 食事前

赤痢予防の第一は、手を洗うことです。簡単なことですが、なかなか確実にできないものです。手洗いなど次の四点を実行しましょう。

### 十分手洗いを

- ① 石けんと多量の流水で
- ② 用便後や食事前は水道水を流しながら、石けンを使った十分手を洗ってください。たぬきは使わないで水道水を多用して、洗
- ③ 暴飲暴食を避け、抵抗力の調子を養い、抵抗力
- ④ 小どん、おもちや、おぼろ、日光消毒を



### 季節に関係なく発生

赤痢は、急性感染病の一つです。以前は春に多く発生していましたが、最近では夏と冬の差はなくなり、発生しています。一般的に、夏は十歳以上の人が大部分を占めています。赤痢菌は、保菌者の便から排出され、手拭き、ハコ、ゴミ箱などの媒介で飲食物に混じって感染します。このため、最近ではお盆

### 赤痢の主な症状は

- ・潜伏期間は、一日から七日間、主症状は三度から三九度の発熱、同時にやや重く下腹部の痛みが始まり、一日から三日熱は下がります。
- ・下痢は軽い場合で、一日数回の泥状水様便で、重い場合は一日三十回程度の下痢があり、粘液、血液

